

1 地域課題1

「歩いて行ける通いの場、運動教室が少ない」

サロン運営者の高齢化や後継者不足、新型コロナウイルス感染症の影響による参加者の減少、地域の交流の減少、参加者の運動不足等の課題が上がった。これらの課題は、サロン運営者から意見を聞く調査でも上がった。市の補助金による支援だけでなく、サロン運営の悩みを聞くなど継続支援の必要性が議論された。市としては、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）や各地域包括支援センター等と情報交換しながら進めていきたい。

協議会では、サロンの情報を、市のホームページやレインボーネットを活用し、市民だけでなく専門職への情報提供を行うことが検討された。現在、市では、サロン一覧のチラシと、レインボーネットに記載している地域資源の情報を見直している。

また、ふれあいサロンに代わる通いの場の一つとして、おれんじスペースの活用についても提案があった。包括所属の認知症地域支援推進員が中心となり、おれんじスペースの登録を推進している。高齢者にやさしい通いの場となるよう啓発していく。

2 地域課題2

「買い物ボラ、御用聞き、宅配スーパーがない、オンライン買い物、買い物代行支援がない。担い手不足」

通いの場の情報だけでなく、レインボーネットに情報を掲載を検討する提案があった。高齢者自身は、レインボーネットを使うことが難しい場合もあるので、その支援者が活用できるような方向性になった。

3 地域課題3

「外出を控える傾向があり、フレイルになっている可能性がある」

後期高齢者健診の結果の活用方法として、医師会が会員に働きかけ、後期高齢者健診の間診票から、オーラルフレイルの可能性のある人にアドバイスし、歯科受診を進めるよう伝えた。後期高齢者健診の間診票に追加したい項目や、健診の結果返却時のアドバイスシートなどについて意見が出された。国保医療課にて検討してもらうよう働きかけていくことになった。